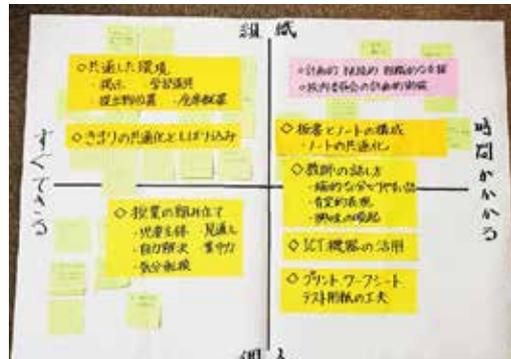


すべての児童生徒が「分かる、できる」を実感できる学級・授業づくりをめざして！

ユニバーサルデザイン

の良さを取り入れた

# 学級・授業づくり ハンドブック



## 「ユニバーサルデザイン」の良さを取り入れた教育とは

「配慮の必要な児童生徒にとって、なくてはならない支援」であり、「すべての児童生徒にとって、あると便利な支援」を行うことで、すべての児童生徒にとっての「分かる、できる」を保障する教育(学級・授業)です。

特別支援教育  
の視点

学校組織で取り組む  
「ユニバーサルデザイン」  
の良さを取り入れた教育

教科指導  
の視点

小・中・高校対応

大分県教育センター

取組事例

1 関係づくり

2 教室環境

3 学習や生活の  
さまり

4 授業の  
組み立て

5 教師の話し方  
発問や指示

6 板書の仕方と  
ノート指導

7 教材・教具

# こんなとき、どのような指導・支援をしますか？

学級の実態からポイントを絞り込み、具体的な取組方法を考えてみましょう。

## 目標 落ち着いて過ごせる学級にしたい

**実態** 教室がざわざわしていることが多く、トラブルが起こることもある。また、教室が散らかっていても気にせず、自分がしたいことをする子が多い。

- ポイント**
- 分かりやすいきまりの明示
  - スケジュールの提示
  - 個人スペースの確保
  - 視覚的な支援・配慮

### 取組事例



2-④ スケジュール



3-① 生活のきまり



2-① 個人スペースの確保



2-① 視覚的な支援

「どこに」  
「何があるのか」  
一目瞭然



2-① 視覚的な配慮

必要ないものはカーテン  
等で、できる限り見えない  
ようにしておく。

## 目標 いろいろな考え方や意見が出てくる学級にしたい

**実態** みんなの前で発言することを嫌がる雰囲気があり、特定の児童生徒の発言で授業が展開されることが多い。また、友達関係が希薄でグループ活動が行いにくい。

- ポイント**
- 成功体験(肯定的評価)
  - コミュニケーション能力の育成
  - 学習形態の工夫
  - 情報共有

### 取組事例



1-①  
成功体験  
(肯定的評価)



4-⑥  
学習の形態を工夫  
グループ学習の活用



3-③  
情報共有  
教科担当間で情報共有を図り、  
教科の枠を超え全職員が共通して取り組む



1-③  
コミュニケーション  
能力の育成  
仲間づくりトレーニング【お互いの良さに気づくためのトレーニング】

【学級・個人の実態】【教師のねらい】【教科の特性】等を考慮して、7つの視点の中から必要だと思う方法を選択し、取組を進めましょう。

裏面のユニバーサルデザインチェックシートも活用ください。

目標

## 全員が同じ課題に向かって取り組む授業にしたい

実態

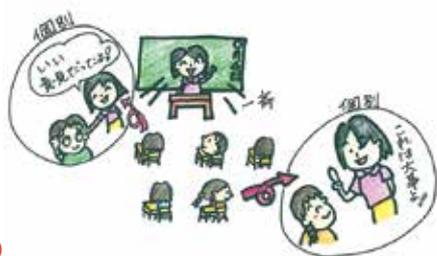
授業中に目標の再設定をしたり、授業が時間内に終わらなかったりすることがある。また、多様な個性を持つ児童生徒に対応できていない。



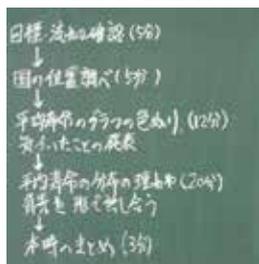
ポイント

- 学習の流れの提示
- 授業のリズムづくり
- 支援の仕方(全体・個別)
- 分かりやすい板書の構成

取組事例



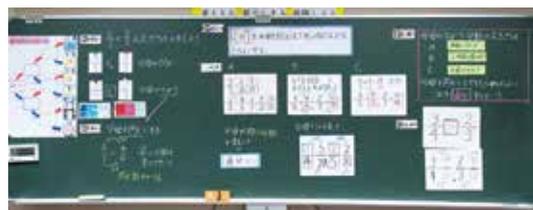
5-④ 全体への発問指示と個別の支援を組み合わせる



4-② 本時の流れを提示(活動の見通し)



4-⑦ 授業にリズムをつけている



6-① 見やすく、シンプルな板書

目標

## 学んだことが、しっかり定着するような授業にしたい

実態

授業中は、教師の話をしっかり聞こうとする雰囲気を感じられる。しかし、テストをすると期待するほど成績が伸びていない。



ポイント

- 既習事項活用の工夫
- 満足感や達成感のあるまとめ
- 多様な選択肢
- 定期的なノート点検・評価

取組事例



4-④ 既習事項活用の工夫

単元途中の成果物等は、児童生徒がふりかえりやすいように、掲示の仕方を工夫する。



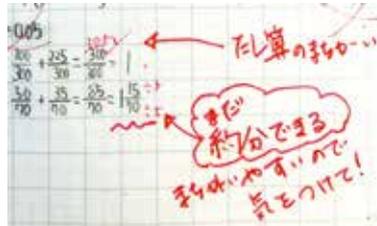
4-⑧ 満足感や達成感のある振り返り

修得した知識等を使い、自分の言葉で表現させる。



7-② 実態に合わせた配慮(多様な選択肢)

一人一人の実態に応じた多様な選択肢を用意し、主体的な学習を促進する。(学び方の多様性への対応)



6-④ 定期的なノート点検・評価



### 3 時・場・相手などに応じたコミュニケーションの仕方について指導している。

人間関係が希薄になっている現在、周囲と自分の違いに戸惑いを感じている児童生徒には、時・場・相手などの状況に応じた適切な対応方法について、具体的に指導することが大切です。

#### 児童生徒の様子

- 友達とどう関わればよいか分からない。
- 一人で行動することが苦手。
- 周囲から浮いて見える。

#### 指導・支援例

- A** ペア学習やグループ活動を意図的に仕組み、日常的に児童生徒が関わり合う機会を持つようにしている。
- B** 仲間意識を育成するための場づくりや言葉かけを行っている。
- C** 自己表現、他者理解、感情コントロールを学ぶために、ソーシャルスキルトレーニング等を取り入れている。
- D** 大分県版人間関係づくりプログラム（大分県教育センター教育相談部）を取り入れた活動を行っている。



A ペア活動を計画的に取り入れ、関わりを持たせている。



B 日常生活の場を活用した指導・支援の工夫



C 共同作業（コミュニケーション）で新聞パズルを完成させる活動



C 声を出して相手に伝える場を意図的に設定したゲーム活動

### 4 児童生徒の問題やトラブルについて、本人又は保護者、教職員が連絡を取り合い、その望ましい在り方を指導している。

児童生徒の抱える困りを解決するためには、関係者が連携し、同じ視点で取り組んでいくことが大切です。

#### 児童生徒の様子

- なかなか成果が見えない。
- 先生によって態度が違う。
- 有効な支援が見つからない。

#### 指導・支援例

- A** 個別の対応が必要な児童生徒に対しては、訪問や電話、連絡帳等の多様な方法を通じて、こまめな情報交換を行っている。
- B** 学校・学年・学級通信等を通じて、学校の様子を保護者や地域に伝えている。
- C** 学級担任、教科担当、関係者による情報交換を定期的に行っている。
- D** 学校、家庭、地域での様子について情報収集・交換・理解する場を定期的に設けている。
- E** 「相談支援ファイル」等を活用して、計画的（目標・方法・評価）な指導をしている。



A 状況に応じた情報交換を選択し実施している。



E 相談支援ファイルの活用

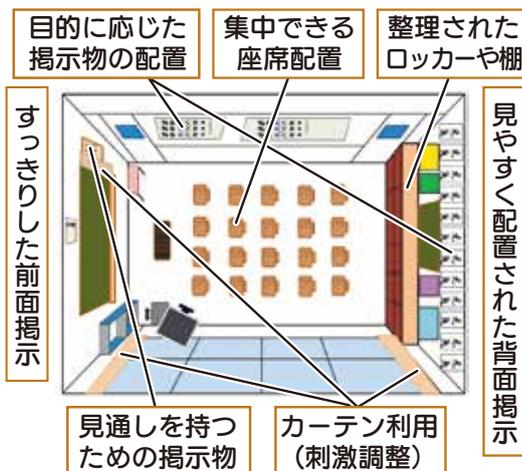
# 2

## 教室環境

教室は、児童生徒が学校での生活の大半を過ごす場です。そこでは、各教科の学習や特別活動、休憩中の仲間とのふれ合い等様々な活動が行われます。

これらの活動がよりスムーズに行われるためには、学級の実態に応じた環境づくりが大切です。

児童生徒一人一人が、自分の力を十分発揮できるように教室環境の工夫をしてみましょう。



### 1 学習道具や提出物の整理整頓の仕方を定めている。

視覚刺激に敏感な児童生徒は、雑然とした環境が苦手です。何をどのように整理整頓すれば良いのかをはっきり示しておくことで、不安感やパニック行動を防ぐことができます。

指導・支援例

- A** ノートやプリントを提出するコーナーやかご等を準備する。
- B** 個人のスペース(ロッカー、フック等)を準備する。
- C** 教卓、教壇周辺をすっきりする。
- D** 学習や掃除等に使う道具については、「何を」「どこに」「どのように」整理すればよいか見本(写真・絵・色表示)を示す。



A 種類ごとにかごを用意することで、整理の仕方が分かりやすい。



C 目隠しカーテンの利用



図書館



D 低学年生にも見やすいよう配慮された床表示

#### 児童生徒の様子

- 片付けが苦手。
- 学習の準備ができない。
- 授業に集中できない。

### 2 児童生徒の実態に合わせた座席配置をしている。

視力、聴力、身体的な面、こだわり等への配慮が必要な児童生徒は、環境に影響されることがよくあります。最大限の学習効果を得られるような環境づくりを心がけましょう。

指導・支援例

- A** 先生や友達からのサポートを受けやすいようなペア・グループ編成を行う。
- B** 個人の学びやすさ(視力、聴力、身体的な面、こだわり等)に配慮した座席決めを行う。
- C** 授業に集中できるよう座席間のスペースを確保する。



A 必要ときにすぐにサポートが受けられる工夫



C 各自が集中できる環境スペース

#### 児童生徒の様子

- 学級が騒々しい。
- 隣席同士のトラブルが多い。
- 班活動がうまくいかない。

## 3

## 視覚刺激に配慮した環境の調整をしている。

視覚による影響を受けやすい児童生徒にとって、必要以上の視覚情報は、マイナスの効果をもたらします。教師側の意図を明確にし、環境の調整を行いましょ。

## 児童生徒の様子

- すぐに気が散ってしまう。
- なかなか集中できない。
- 何をしているのか途中で分からなくなる。

## 指導・支援例

**A** 教師側の意図に応じて、教室前面・側面・背面の使い方を工夫する。

**B** カーテン等を利用して、活動内容に応じた環境の調整を行う。

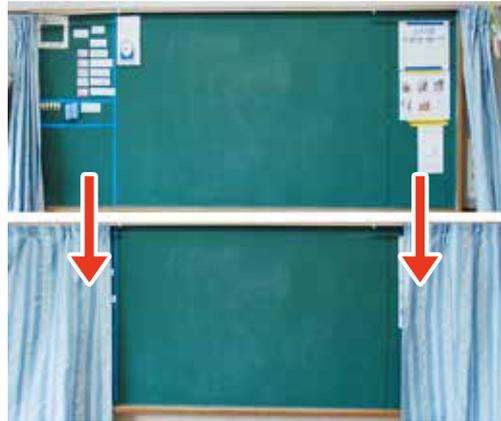
**C** 教室の掲示物を精選したり、過度の視覚刺激となる色使いにならないよう配慮する。



**A** 一時的又は拡大・強調して見せたい資料はICT機器を活用する。  
※必要ない時はOFF



**A** ふりかえり等に使う資料は側面に掲示し、必要に応じて参照できるようにする。



**B** 常時必要のない掲示物はカーテン等で隠し、必要な場面ですぐに出せるようにする。

✕ 文字色と背景色の明暗差が少ない組み合わせ(例)

めあて	めあて	白と黄
めあて	めあて	赤と緑
めあて	めあて	赤と黒

○ 明暗差がはっきりとした組み合わせ(例)

めあて	めあて
めあて	めあて
めあて	めあて

**C** 色使いの配慮・工夫(例)

## 4

## スケジュールを見やすく掲示している。

見通しを立てるのが苦手な児童生徒は、急な連絡や予定の変更になかなか対応できません。スケジュールを見やすく掲示しておくことで、安心して活動することができます。

## 児童生徒の様子

- 忘れ物が多い。
- 行動が遅れる。
- 急な変更があるとパニックになったり、固まったりする。

## 指導・支援例

**A** 一週間や一日の流れ(内容や準備物)を確認できる掲示物を用意する。

**B** 急な変更や追加があるときには、視覚的に分かりやすく伝える。

**C** 掲示物はカテゴリー別に整理する。

**D** 提示情報が必要以上に多くならないよう、目的を達成したら、不必要な情報は片付ける。

**E** 文字のみ、言葉のみの指示で伝えるのではなく、視覚的な配慮(写真・絵)を併用する。



**A** 玄関前に行事予定表をプレゼン表示して、児童生徒に分かりやすく伝えている。



**C** 必要な情報が直ぐに見つかるようにコーナーを作って掲示している。



**E** 学習準備物を写真で補足説明して掲示している。



# 3

## 学習や生活のきまり

新しいきまりの定着には、時間がかかります。ましてや、「誰もが分かっている当然と思われる“暗黙のルール”」を全員が理解するには大変な困難が予想されます。

誰もが分かりやすいシンプルなきまりを予め示して置いたり、具体的な例を挙げて理解させたりするよう心がけましょう。



### 1 学校・学年・学級生活のきまりを分かりやすく定めている。

自分なりのきまりにこだわる児童生徒は、学校生活のあらゆる場面で戸惑いを感じることがあります。何をどうすれば良いのかについて具体的にイメージできるように心がけましょう。

#### 児童生徒の様子

- 時間が守れない。
- 係活動がうまくできない。
- 校則が守れない。
- 集団活動に参加しない。

#### 指導・支援例

- A** 基本的な生活習慣や時間、片付け等のきまりを手順化、視覚化して示す。
- B** 学習、校則・生活のきまりについては、具体的な目標を児童生徒に示すとともに、達成できたことを児童生徒全員で共有させる工夫を行っている。
- C** 特別教室(図書室、理科室、音楽室、体育館、施設内等)での過ごし方を学校全体で統一するとともに、見てすぐに分かる工夫をしている。
- D** 学年、発達段階、使いやすさ等に応じた掲示の工夫をする。



A 仕事内容を手順に沿ってカード化



A 自分の仕事内容が見て直ぐにわかる工夫



B みんなが真似したくなる掲示の工夫



C 全校統一した過ごし方のルール



C 見て直ぐに分かるルール (図書室)



D 混雑時のトラブルを起こさないための動線に配慮した名札掲示(靴箱)

## 2 学習活動のきまりを分かりやすく定めている。

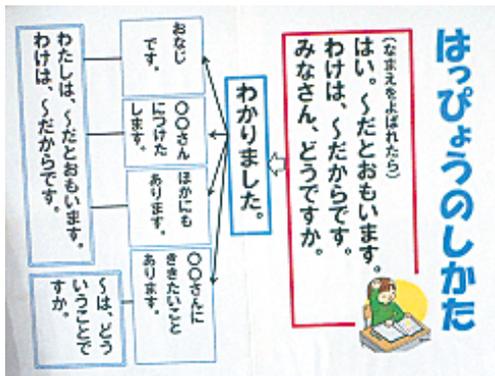
きまりを突然変更したり、追加したりすると、遅れがちになったり、パニックになったりする児童生徒が出てくる場合があります。あらかじめパターンを示しておくことで、自分なりのペースで学ぶことができます。

### 児童生徒の様子

- 話を聞くのが苦手。(聞く)
- 発表するのが苦手。(話す)
- ノートの書き方が分からない。(書く)

### 指導・支援例

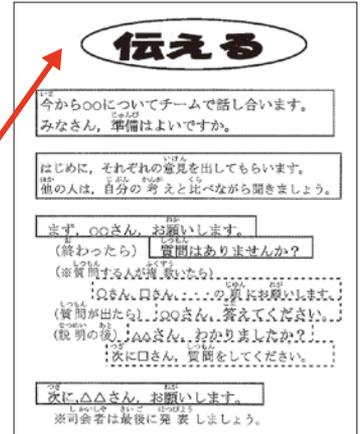
- A** 発表や話し合い、作業活動のきまりを手順化、視覚化して示す。
- B** 学習の仕方について、マニュアル(手引き)等で具体的に示す。
- C** 宿題や自主学習については、発達段階や個性に応じた学び方を保障するために、可能な範囲で選択肢や多様な指導法を用意する。



A 発表時のルールを掲示しておく。



B 司会者用マニュアルを示しておく。



B 新入生説明会等で基本的なルールを説明

学習活動のきまりについては、あらかじめ具体的なパターンを示したり、選択肢を与えたりすることで、児童生徒自らが主体となる取組が展開されます。

- ポイント (例)**
- 授業の流れ、受け方
  - 各教科の特徴、勉強の仕方
  - テストの対策、受け方
  - 家庭学習や自主学習の進め方

## 3 教師間や学校間の情報共有を図り、児童生徒に統一した指導を行っている。

担任や担当の交替等により、学習のきまりを変更することがあります。しかし、その変更が児童生徒に負担とならないような配慮をすることも必要です。教師に合わせさせるのではなく、教師が児童生徒に合わせた指導を行うように心がけましょう。

### 児童生徒の様子

- 特定の教科、時間になるとパニックになる。
- 学級のまとまりがなくなってきた。
- 提出物を出さない。

### 指導・支援例

- A** 各教科担当同士で情報交換(学習進度、児童生徒の様子)をし、授業等にかかしている。
- B** 引継情報等をもとに、年度初めに基本方針の共通理解を全職員で行っている。
- C** 幼小、小中、中高できまりの共有化を図っている。



A 情報交換を定期的に行い、全員で方向性を確認する。



C 入学前にガイダンス資料を配布

# 4

## 授業の組み立て

校種や学年、教科の特性等によって、授業の組み立て方は異なることがあります。しかし、毎回授業の流れが大きく変わったり、担当教員の思いだけで授業を組み立てたりすると、児童生徒も、その都度学び方や行動の仕方を変えなければなりません。

すべての児童生徒が安心して学習できるように授業の組み立て方を工夫しましょう。

すべての児童生徒が、授業に参加し、学習内容を理解するための  
**授業の組み立て8ポイント**

- ① 学習準備
- ② 見通しを持たせる
- ③ 動機づけ
- ④ 自力解決のための手がかり
- ⑤ 適切な時間配分
- ⑥ 「ねらい」と一致した学習形態
- ⑦ 集中力を高める工夫
- ⑧ 満足感・達成感のある振り返り

### 1 教科書、ノートやファイル、学習用具等の準備について指導している。

学習環境を整えることは、児童生徒の集中力を高め、落ち着いて学習する効果があります。全ての児童生徒が授業に参加するためのルールづくりを大切にしましょう。

指導・支援例

- A 必要最小限の物だけ机に出すように指導している。
- B 机上準備物の見本を視覚的に示している。
- C 学習で使うものを、事前に予告している。
- D 予想される児童生徒の困り(忘れ物、特性等)への支援策を準備している。



D 貸し出し用学習道具を準備し、全員が授業に参加できるような支援策を準備している。

#### 児童生徒の様子

- 忘れ物が多い。
- 机上の準備や整理が苦手。
- 学用品での手遊びが多い。

つくえの上に出しておくもの



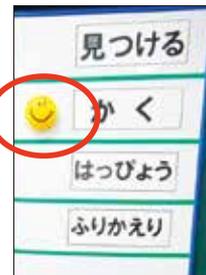
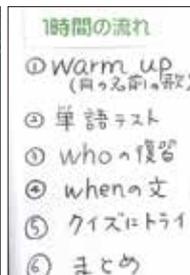
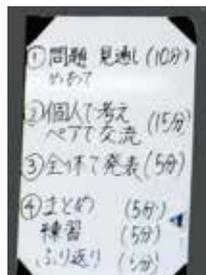
B 机上準備物を視覚的に掲示している。

### 2 単元や本時のはじめに、学習の流れを提示し、見通しを持って取り組めるようにしている。

「集中できる時間が短い」「切り替えが苦手」な児童生徒は、学習がどのように進むのか自分なりに見通しを持たせることで、集団の中でも自分なりのペースを維持することができます。

指導・支援例

- A 授業や活動の流れを、視覚的に提示している。
- B 「何の活動」「どの段階」をしているのかが、分かるようにしている。
- C 活動の時間や終わりが、分かるようにしている。



A 授業の流れを事前に伝えている。

B 今、行っている活動を示している。

#### 児童生徒の様子

- 集中しにくい。
- 学習活動が遅れがちになる。
- 人と違うことをしてしまう。

### 3 導入では、興味・関心を高め、動機づけを図る工夫をしている。

発達段階や、教科の特性に合わせた導入の工夫を行うことで、児童生徒の興味・関心が高まり、意欲的な学習展開が可能となります。

指導・支援例

- A** 発達段階や教科の特性を踏まえた教材・教具の工夫をしている。
- B** 前時までの学習内容や必要となる基礎知識を想起させている。
- C** 多様な意見や考え方が出てくるような工夫をしている。



**A** 英語動詞の変化をリズム(ギターコード)と組み合わせて伝え、暗唱させる。



**B** 必要となる基礎知識を具体物を見せてから授業に入る。

児童生徒の様子

- やる気がわからない。
- 関係ないことをしている。
- 意見がなかなか出てこない。

### 4 分かりやすく主体的に取り組めるような課題設定を行い、自力解決の手がかりを持たせている。

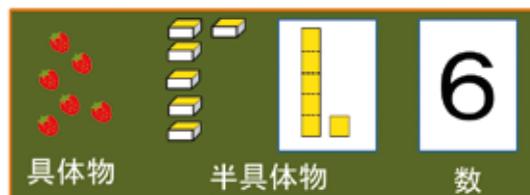
主体的な取り組みを行うためには、児童生徒の思考を促し、自力解決するための手がかりやツールを用意しておくことが必要です。

指導・支援例

- A** 既習事項を振り返るための掲示物を準備している。
- B** 絵や図を使ってポイントやヒントを視覚的に示している。
- C** 各教科の特性やねらいに応じた学習ツールを活用している。
- D** ペアやグループによる話し合い活動を取り入れている。



**A** 必要なときに、情報を引き出せるための掲示物等を準備しておく。



**C** 各教科の特性に応じた学習ツールを手がかりにして、自分なりの考えを持つことができるようにしている。



**D** 友達からのアドバイスをもとに、自分の考えを持たせる。

児童生徒の様子

- 考えが浮かばない。
- 教師の支援があるまで動かない。
- すぐに友達のまねをする。

## 5 展開では、主体的な学びを保障するために学習活動の時間配分を工夫している。

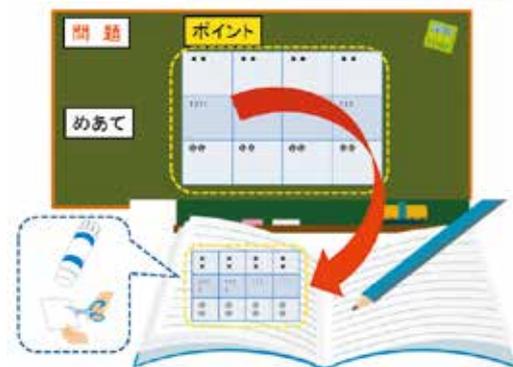
児童生徒が本来持っている力を十分発揮するためには、児童生徒の実態と授業のねらいを考慮して、学習活動にかかる時間配分を工夫することが大切です。

指導・支援例

- A** 学習活動(導入、展開、まとめ)の時間配分を工夫している。
- B** 単元計画等に基づいて、本時で指導すべき内容を精選している。
- C** 中心となる学習活動に必要な時間を確保できるように、ワークシート等を活用している。

児童生徒の様子

- 最後まで考えがまとまらない。
- 時間が足りない。



**C** 予め準備していたワークシート(板書と同じ枠)をノートに貼ることで時間の短縮をしている。

## 6 授業のねらいに応じて様々な学習の形態(ペア学習、グループ学習、一斉学習等)を工夫している。

児童生徒の思考の幅を広げ、全体の場に個人の考えを位置付けていくためには、ねらいに応じた様々な学習の形態を取り入れることが大切です。

指導・支援例

- A** 授業のねらいに応じた学習形態(ペア、グループ、一斉学習等)を選択している。
- B** 友達に分かりやすく伝えさせるための工夫(発表ボード、ICT機器等)をしている。
- C** いろいろな意見や考え方をワークシート等を活用し、視覚的にまとめるようにしている。
- D** 互いの意見や考えを交流させている。

児童生徒の様子

- 自力での解決ができない。
- 発表できない。
- 考え方が固定的で広がらない。



**A** 提示物のそばに集まり、じっくり観察しながら意見交流をさせている。



**B** タブレット端末や発表ボードを活用して、意見交流をさせている。



**C** 学習活動にあったワークシートをもとに、意見交流をし、考えをまとめている。



**D** 個人の考えを小黑板を用いて、板書上に位置付けてから、意見交流させている。

# 7

## 集中力を高めるために、活動を切りかえたり、授業展開にメリハリをつけたりする工夫をしている。

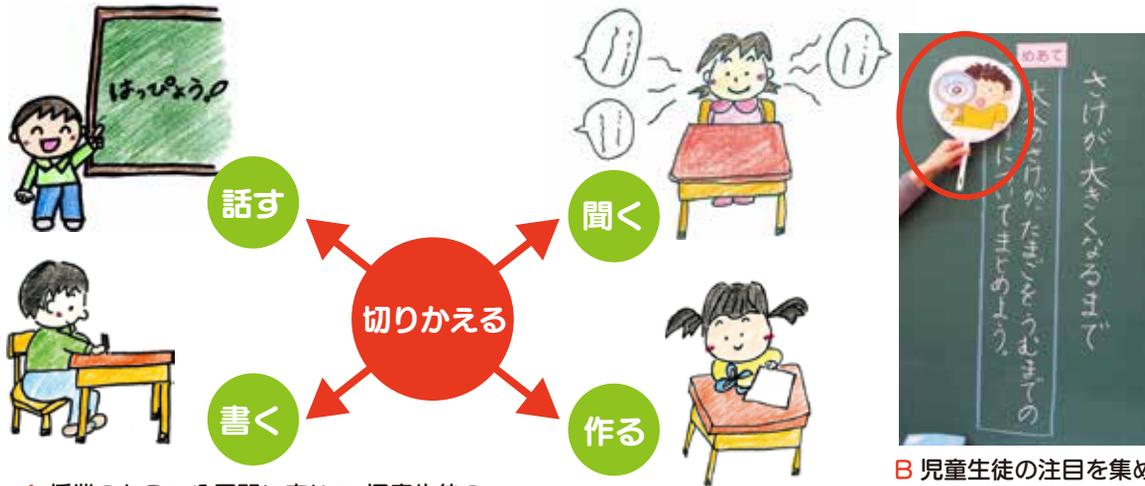
児童生徒が集中して取り組める時間には、限界があります。活動内容や方法を工夫することで、より効果的な学習が可能となります。

### 児童生徒の様子

- 手遊び、よそ見をする子が出てくる。
- 集中力が切れてしまう。
- 学習の能率が悪い。

### 指導・支援例

- A** いろいろな感覚を使う活動(読む・書く・聞く・話す・作る等)を取り入れている。
- B** 話を聞くととき、板書を見るとき、考えをノートに書くととき等の活動の区切りをつけている。
- C** 発達段階や児童生徒の状況に応じて、活動にかかる時間を調整している。



**A** 授業のねらいや展開に応じて、児童生徒の学習活動を計画的に切りかえている。

**B** 児童生徒の注目を集めてから、次の指示を出す工夫

# 8

## 振り返りでは、「分かった」「できた」という満足感や達成感を持たせる活動を取り入れている。

理解の定着を図るには、児童生徒一人一人に学習したことを振り返らせ、満足感や達成感を持たせることが大切です。

### 児童生徒の様子

- 活用、応用できない。
- なかなか定着しない。
- 直ぐに忘れてしまう。

### 指導・支援例

- A** 課題と一致したまとめになるようにしている。
- B** 自分の言葉で振り返りやまとめを書かせている。
- C** 授業で分かったことを、友達同士で共有する工夫を行っている。
- D** 確認・練習問題で授業成果の振り返りを行っている。



**B** 自分の言葉で表現する活動を取り入れている。



**C** 授業で自分が学んだことを、友達同士で伝え合う。

## 教師の話し方、 発問や指示

教師の児童生徒への働きかけの大部分は「話すこと」です。しかし、人はそれぞれに話し方の癖を持っており、その癖が無意識に出てしまうことで、伝わりにくくなることがあります。

また一般的に、話し手が聞き手に与える印象は、話の内容だけでなく、視覚的情報や非言語的(声、表情、振舞、服装等)な部分の影響も大きいとされています。

分かりやすいメッセージを与えるための工夫を考えてみましょう。



### ① 肯定的な表現で接する

- 頑張りを認める
- 丁寧で明るい口調

### ② 児童生徒の意識を引きつける

- 興味や関心のあることを取り入れる
- 肯定的な表現で接する
- 見通しを持たせる前置きをする
- 言葉だけでなく、表情・動作等をまじえる

### ③ 何をしようとしているのか 分かりやすく伝える

- 発問、指示、説明等を効果的に組み合わせる
- 一文で一つの指示・動作を出す
- できる限り具体的(写真活用等)に表現する
- 児童生徒の様子(実態)をいかに

### ④ 児童生徒の得意なことをいかに

- 児童生徒の様子を把握する
- ヒントや選択肢を準備する
- 様々な層を想定した発問を準備する
- 個人の意見を全体に広げる

## 1 児童生徒の頑張り認め、肯定的な表現で話しかけている。

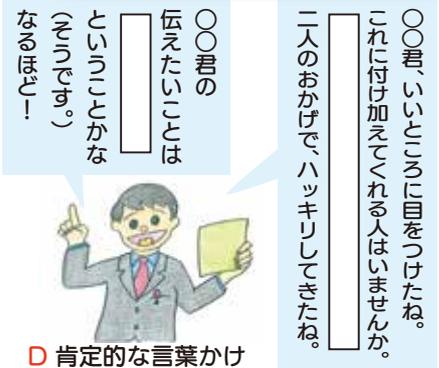
児童生徒のやる気を引き出し、積極的な学習参加を促すためには、一人一人の児童生徒の頑張り認め伸ばそうとする雰囲気づくりが大切です。

指導・支援例

- A** 学習やテストの結果だけでなく、その過程や本人の伸びを認めるようにしている。
- B** 待つことを基本としながら、必要に応じて児童生徒の言葉を補足したり代弁したりしている。
- C** モデルとなる友達の言動を紹介し、全体に広めるようにしている。
- D** 肯定的な言葉で、児童生徒の言動の修正を促している。

### 児童生徒の様子

- 意見を言わない。
- 自信がない。
- 自分勝手な言動が目立つ。



## 2 話し始める前に、興味を引く工夫(タイミング、立つ位置、前置き等)をしている。

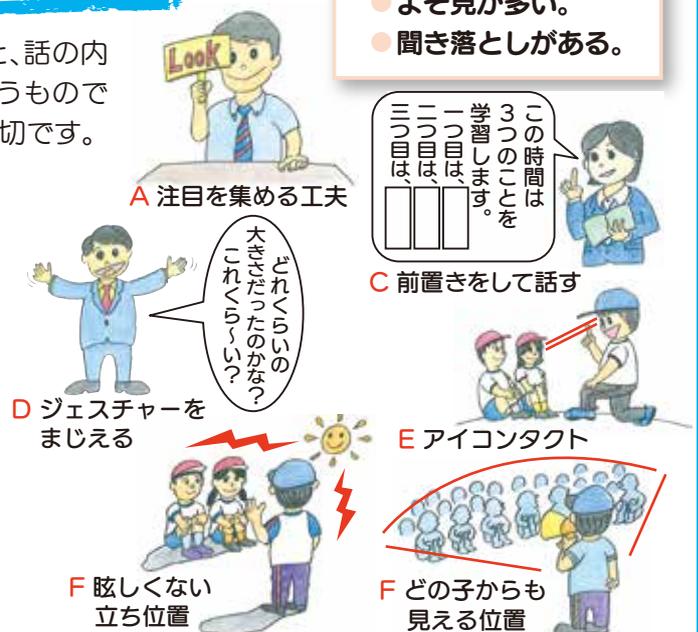
聞く準備ができていない状態で話し始めると、話の内容がうまく頭の中に入らず、聞き落としてしまうものです。話す前に児童生徒の注目を集める工夫が大切です。

指導・支援例

- A** 児童生徒の活動をいったん止める等して、話し始めるようにしている。
- B** 児童生徒の様子を見ながら、話し始めるタイミングを計っている。
- C** 話す内容について、見通しをもたせるような前置きをして話し始めている。
- D** 言葉だけでなく、表情や視線、動作をまじえて話している。
- E** 配慮を要する児童生徒には、言葉だけでなく個別にアイコンタクトや動作などのメッセージを送っている。
- F** 児童生徒の注目を集めるために、指導の場面に依りて立ち位置を変えている。

### 児童生徒の様子

- 話を聞いていない。
- よそ見が多い。
- 聞き落としがある。



### 3 分かりやすい発問や指示になるように、表現の仕方を工夫している。

発問や指示を出すとき、一文が長かったり、同時に複数の要素を盛り込んだりすると、混乱してしまう児童生徒が出てきます。児童生徒に分かりやすい発問や指示になるよう発達段階等に応じて、できるだけシンプルな発問や指示を心がけることが大切です。

#### 児童生徒の様子

- 何度も聞き返してくる。
- 発問と違うことをしている。

#### 指導・支援例

- A** 一文で、一つの指示や動作を伝えている。
- B** 言葉だけで伝わりにくいことは、具体物や写真、イラストで補っている。
- C** 人によりとらえ方が違う抽象的な表現は避け、具体的に表現している。



A・B シンプルで分かりやすい提示



(例)月曜の帰りまでには出さない。  
C できる限り具体的に伝える。

#### 具体的な表現(例)

- 量、大きさ等の単位  
「スcoop 1 杯分」  
「10g だけ」
- 時間、期限  
「来週の月曜までに」  
「10分以内で」
- 出来具合等の表現  
「80点：数値化」  
「◎○△：段階評価」

### 4 児童生徒の得意なことをいかせるように、全体への発問や指示、個別の声かけや確認等を行っている。

同じ発問をしても、児童生徒のとらえ方は様々です。全体への指示を行った後、状況に応じた個別の声かけを行うことで、すべての児童生徒が同じ視点で活動することができます。

#### 児童生徒の様子

- 発問を理解していない。
- 指示と違うことをする。
- 迷っている。

#### 指導・支援例

- A** 発問、指示、説明を効果的に組み合わせている。
- B** 個人の意見を全体に反映させるための声かけや指示を行っている。
- C** 児童生徒の実態にあわせてヒントや選択肢を複数準備している。
- D** 一部の児童生徒だけで、授業が進むことのないように、様々なパターンを想定した補助発問等を準備している。

〇〇君、こんな考え方もあるんだね。すごくいい意見になるよ。



B 児童生徒の実態を把握し、全体の場に反映するための、個別の声かけを行っている。

どうしても、思い出せない人には、ヒントを出すよ。  
ヒントを出すよ。  
● 4文字だよ  
● こんな生き物が生息している場所だよ  
● 理科ではこんな記号で学習したね

気候区分	動物	土壌・植物	樹種・その他
ET	ツンドラ	ツンドラ土	( )・藓苔類
Dw	トウモロコシ	ポドソール<やせた強酸性土壌>	(針葉樹)
Cfb	落葉林	褐色森林土<肥沃な土壌>	針葉樹と( )の混交林
Cfa	落葉林	褐色森林土<肥沃な土壌>	落葉樹
Cwa	落葉林	褐色森林土<肥沃な土壌>	落葉樹
Ca	落葉林	褐色森林土<肥沃な土壌>	落葉樹
BW	草原	( )土<塩分の多い( )性土壌>	短草草原
BS	ステップ	褐色土・黄色土<肥沃な土壌>	(アルゼンチンパンパなど)
Aw	サバナ	ラトソル	落葉樹と短草草原
Af	熱帯雨林	赤土<( )性土( )土>	常緑広葉樹(アマゾン雨林など)

文字数 他教科の学習内容 イラスト

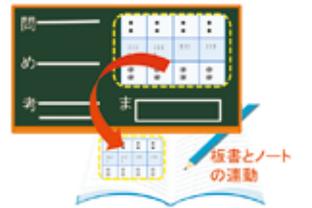
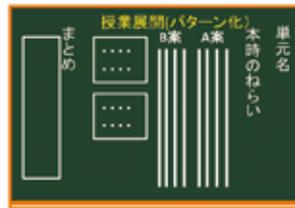
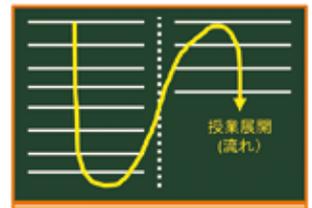
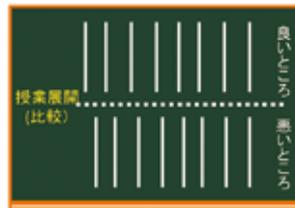
C・D まとめ場面では、全員が参加できるように、児童生徒の実態に合わせた様々なヒントや選択肢を活用している。

# 6

## 板書の仕方とノート指導

学習のポイント等を板書上に位置付けることで、必要な情報を全員で共有することができます。また、何をすべきかが明確になることで児童生徒の集中力も高まります。

授業のねらいに応じた板書の工夫をしたり、児童生徒のノートとの連動を大切にしたりすることで分かりやすい板書をつくりあげましょう。



### 1 授業の流れや内容が分かるように板書の構成を工夫している。

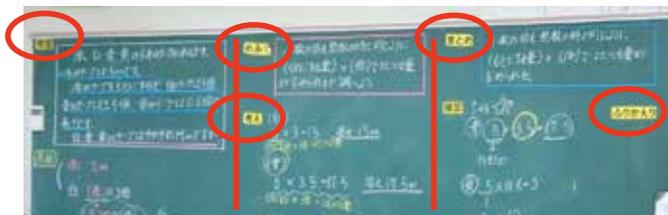
あまりに情報が多い又は少ない板書や、どこに何が書いているのか整理されていない板書は、児童生徒の思考の手助けとはなりません。何をどこにどれくらい書くのか、事前に計画し、簡潔に伝えていくことが大切です。

#### 児童生徒の様子

- 量が多すぎて、何を書いているのか分からない。
- どこが大切なか絞れない。
- 活動内容と合っていない。
- ノートを取る必要を感じない。

#### 指導・支援例

- A** 授業の流れ(めあて、考え、まとめ等)が分かるよう補助表示等の工夫をしている。
- B** どこに何が書かれているか分かるように、整理(分割、スペース利用等)している。
- C** できる限りシンプルな言葉でまとめている。
- D** 目的に応じて、資料(写真、イラスト等)を活用している。



B 見やすいように、整理された板書



D 図をまじえての説明

### 2 教室の後ろの児童生徒からも見えるような文字の大きさ、太さ、配置の工夫をしている。

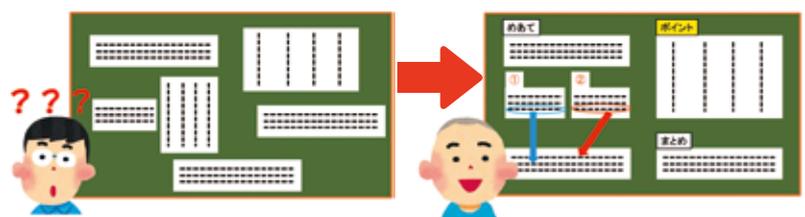
小さな文字や縦書き、横書きが混在した表記等は、どこに何が書かれているのか理解に時間がかかります。後ろからでも見やすい文字の大きさ、太さ、配置の工夫をすることで、全ての児童生徒にとって、分かりやすい板書となります。

#### 児童生徒の様子

- 板書の文字が見えない。
- 字が読みにくい。
- どこを見ていいのかわかりづらい。

#### 指導・支援例

- A** 注意力が散漫にならないように、縦書き、横書きの配置バランスを工夫している。
- B** 読み飛ばしや混同が起きないように、行間やスペースを適切に取っている。
- C** 後ろの座席でも見えるような文字サイズにしている。



A 縦書き、横書き等の配置バランスを工夫している板書

### 3

## 大切なところが分かるように工夫して示している。 (色、ラインや囲み、矢印や記号、掲示物の活用等)

ポイントとなることを印象づけるためには、視覚に配慮した効果的な板書が大切です。

### 児童生徒の様子

- 何がポイントなのか分からない。
- 細かい部分が見づらい。

### 指導・支援例

- A** 黒板(背景色)との色の組み合わせに配慮したチョークを使うようにしている。
- B** チョーク色、アンダーライン、囲み、矢印、記号、マーク等のルールを全教職員で共通化している。
- C** 新出漢字、重要語句には、必要に応じてルビをふっている。
- D** 小黑板、貼り物等を用いることで情報量の調整をしている。



**B** 板書のルールを学校全体で共通化している。 **D** 必要に応じて、小黑板を移動させたり、取り外したりすることで、情報の調整を行っている。

### 4

## 学習したことや考えをノート等に記録するための指導や工夫を行っている。

児童生徒に、教師の話を聞きながらノートを取らせると、字が乱雑になったり、話の聞き落としが起こったりすることがあります。児童生徒がノートを取りやすいための工夫(スピード、タイミング等)を取り入れたり、教科や学習活動の目的に応じた具体的なマニュアルを示したりすることが大切です。

### 児童生徒の様子

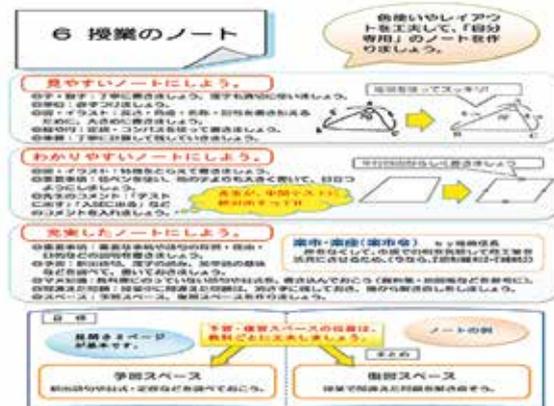
- 時間内に写せない。
- 字が乱雑になりがち。
- 整理の仕方が乱雑。

### 指導・支援例

- A** 児童生徒が書くことに集中できるように、同時に複数(書く・聞く・話す・読む等)の活動を要求しないよう配慮している。
- B** 児童生徒の様子を見て、教師の板書するときのスピードやタイミング等を調整している。
- C** 教師間や他教科間でノートやファイルの使い方について、共通化を図っている。
- D** 見本となる児童生徒のノートや提出物を見本例として紹介している。
- E** 定期的にノート等の点検や指導を行っている。



**A** 児童生徒の様子に応じて、活動のタイミングを指示している。



**C** ノートの使い方について、ルールや具体例を示す。

# 7 教材・教具

教材・教具は、教育効果を高め、基礎的・基本的理解を促すうえで、とても重要です。

授業のねらいを達成するために、児童生徒の実態や予想される困り等に着目した教材・教具の工夫を行うことは、児童生徒の興味・関心・意欲を高め、理解するうえでの手助けとなります。

すべての児童生徒が、授業に参加し、学習内容を理解するための

## 教材・教具の工夫ポイント

- 自発的な行動の発現
- 学習の動機づけ
- 系統的な学習展開
- 学習を深める
- 学習の効率を上げる

1

## 学習(提示)する内容を分かりやすくするための工夫をしている。

児童生徒を引きつけ、ねらいがはっきりわかる学習展開をするには、ねらいと直結したシンプルな教材・教具の提示が大切です。

指導・支援例

- A** 体験できないことや観察や調査が難しいことについては、ICT機器やWebサイト等を活用し、補っている。
- B** プロジェクターや電子黒板、OHPを用いて、ポイントとなるものを拡大したり、強調したりして、提示している。
- C** ICT機器や視聴覚機器を用いて、視覚情報や聴覚情報を効果的に提示している。
- D** 具体物(実物や見本)を用いて、五感で感じさせる工夫を取り入れている。



**B** 発表資料を拡大、焦点化して提示することで、発表者の考えが全体に伝わりやすくなる。



**D** 触ることで形の特徴を見つけさせる活動

### 児童生徒の様子

- イメージがわからない。
- 興味がない。
- 何のことを説明しているのか分からない。

2

## 予想される困りやつまづきに対応するための教材・教具を数パターン準備している。

児童生徒の予想される困りやつまづきに対応するための教材・教具を選択・準備することで、児童生徒一人一人の困りが少なくなり、自らの判断で、主体的に学習に取り組むことができます。

指導・支援例

- A** 教材・教具の使い方を、手順化したり視覚化したりして示している。
- B** どこに何があるのかが一目で分かるように整理、配置している。
- C** つまづきが予想される場面では、児童生徒が選択できるような教材・教具を準備している。



**B** 道具等の違いが直ぐに分かるように配置したり、色分けしたりすることで、児童生徒の使いやすさを保障する。

自分で使いやすい方のプリントを選ばせる



**C** 児童生徒のニーズ(見えやすさ、書きやすさの違い等)に応じたプリントを数パターン準備し、選択させる工夫

- 字を大きく、ふりがな
- 枠線を太く
- 用紙を大きく
- 罫線つき





※7つの視点に沿って、学級・授業を振り返ってみましょう。

1	関係づくり	組織対応 学校・学年	担当 学級・教科
①	安全・安心で一人一人の違いを認め合えるような雰囲気を持った学校・学年・学級経営を行っている。		
②	児童生徒一人一人の状況や仲間関係を把握するための支援を計画的・継続的に行っている。		
③	時・場・相手などに応じたコミュニケーションの仕方について指導している。		
④	児童生徒の問題やトラブルについて、本人又は保護者、教職員が連絡を取り合い、その望ましい在り方を指導している。		
2	教室環境	組織対応 学校・学年	担当 学級・教科
①	学習道具や提出物の整理整頓の仕方を定めている。		
②	児童生徒の実態に合わせた座席配置をしている。		
③	視覚刺激に配慮した環境の調整をしている。		
④	スケジュールを見やすく掲示している。		
3	学習や生活のきまり	組織対応 学校・学年	担当 学級・教科
①	学校・学年・学級生活のきまりを分かりやすく定めている。		
②	学習活動のきまりを分かりやすく定めている。		
③	教師間や学校間の情報共有を図り、児童生徒に統一した指導を行っている。		
4	授業の組み立て	組織対応 学校・学年	担当 学級・教科
①	教科書、ノートやファイル、学習用具等の準備について指導している。		
②	単元や本時のはじめに、学習の流れを提示し、見通しを持って取り組めるようにしている。		
③	導入では、興味・関心を高め、動機づけを図る工夫をしている。		
④	分かりやすく主体的に取り組めるような課題設定を行い、自力解決の手がかりを持たせている。		
⑤	展開では、主体的な学びを保障するために学習活動の時間配分を工夫している。		
⑥	授業のねらいに応じて様々な学習の形態(ペア学習、グループ学習、一斉学習等)を工夫している。		
⑦	集中力を高めるために、活動を切りかえたり、授業展開にメリハリをつけたりする工夫をしている。		
⑧	振り返りでは、「分かった」「できた」という満足感や達成感を持たせる活動を取り入れている。		
5	教師の話し方、発問や指示	組織対応 学校・学年	担当 学級・教科
①	児童生徒の頑張りを認め、肯定的な表現で話しかけている。		
②	話し始める前に、興味を引く工夫(タイミング、立つ位置、前置き等)をしている。		
③	分かりやすい発問や指示になるように、表現の仕方を工夫している。		
④	児童生徒の得意なことをいかせるように、全体への発問や指示、個別の声かけや確認等を行っている。		
6	板書の仕方とノート指導	組織対応 学校・学年	担当 学級・教科
①	授業の流れや内容が分かるように板書の構成を工夫している。		
②	教室の後ろの児童生徒からも見えるような文字の大きさ、太さ、配置の工夫をしている。		
③	大切なところが分かるように工夫して示している。(色、ラインや囲み、矢印や記号、掲示物の活用等)		
④	学習したことや考えをノート等に記録するための指導や工夫を行っている。		
7	教材・教具	組織対応 学校・学年	担当 学級・教科
①	学習(提示)する内容を分かりやすくするための工夫をしている。		
②	予想される困りやつまづきに対応するための教材・教具を数パターン準備している。		
③	出題の意図が全員に同じように伝わるよう、見やすく答えやすいための工夫をしている。		
④	授業や学習活動のねらいを達成するために、スモールステップ化した教材・教具の工夫を取り入れている。		